

あとがき

昭和五十三年、町政施行六〇周年を迎えた熊野町は、記念事業の一つとして熊野町史の編さん、刊行を企画された。

熊野町は町制施行の一〇余年後、昭和六年に本庄村川角・平谷地区を合併して町域を拡大したが、町の姿に著しい変化は見られなかった。しかし昭和四十年代に入ると県営熊野団地の造成をはじめ、新しい住宅地の開発が行われ、広島市・呉市などのベッドタウン化が進んで、町の変容、町民意識の変化が見られるようになった。このような状況は、新しい熊野町の展望を構想させたが、一方で熊野町のこれまでに歩んできた道を追想させる一因ともなった。熊野町史刊行の機運が生まれたのは当然といえよう。

熊野町史編集委員会（神島武彦・三上嘉明・山中寿夫）が町史編さんの事業を委嘱されたのは昭和五十五年であった。既に熊野町には、昭和三十四年に熊野町商工会によって発刊された『筆の町熊野誌』というすぐれた郷土史が存在しているが、編集委員会は前記のような新しい状況を踏まえ、より総合的な町史として、近時各地域で刊行されている市町村史に比肩するような町史の編さんを志した。

編集委員会は直ちに各時代、各分野について執筆担当者を選定、依頼し、以来、資料調査・執筆・編さんにあたって来た。その間研究経過については、町当局にお願ひして研究誌『熊野の歴史』をこれまでに五号発刊して中間報告を行い、また文化講座を担当するなど町民との交流を深めて資料の収集につとめた。しかし、資料の散逸などから生ずる困難な問題もあり、また、執筆者の本務の変化に伴う問題などもあって、誠に遺憾ながら刊行

が相当遅延することになった。編集委員会の責任として深くお詫び申上げたい。

しかし漸くここに通史編を上梓するはこびとなったことは委員会として無上の喜びである。

いうまでもなく、熊野町は筆の町として発展して来た。筆を抜きにして熊野町の歴史を語ることはできない。

そうした観点から本編は、熊野町における筆産業の展開などについて、特に一章を設けて詳細な分析、記述を行った。他に類の少ない試みとして特記に値すると考えている。ただし筆に関する章のページ数の増加の関係もあって、本編に掲載を予定していた民俗・方言などの生活誌に関する叙述は、収集した資料や年表などとともに、来年度刊行予定の続巻に譲らざるをえなかった。既に民俗・方言について、原稿を完成していただいていた執筆者には、特にお詫びしてご寛恕をお願いする。

本編の刊行の遷延についてご寛容いただいた町民各位、殊に町当局に対してもお詫びとともに厚く謝意を表したい。

また多忙な本務のかたわら、熱心に調査・執筆にあたっていただいた諸氏、適切なお助言を頂戴することのできた町史刊行委員会委員各位、さらに快く貴重な資料の閲覧、貸与などを許された広島大学文学部考古学研究室・広島県教育委員会文化課、また熊野筆事業協同組合・熊野町商工会をはじめ地元の数多くの方々、その他資料の提供やご教示を賜った全国伝統工芸センター（東京都港区青山）など多方面の方々、心から深甚な感謝を捧げる。

昭和六十二年六月

熊野町史編集委員会代表

広島大学名誉教授 三上嘉明
比治山女子短期大学教授

熊野町史刊行委員会委員名簿

役職名 氏 名

委員長 福岡孝義

委員 織田信

委員 中原明雄

委員 猪野了周

委員 石山徹春

熊野町史通史編執筆者一覽

執筆者	所 属	
北川 建次	広島大学学校教育学部	第一章第一節・第二節二・第五章第四節・第五節・第六章第三節
小野 忠 熙	山口大学名誉教授	第一章第二節一
吉村 典久	広島大学学校教育学部	第一章第二節三
石橋 昇	広島大学学校教育学部	第一章第三節一
中西 稔	広島大学学校教育学部	第一章第三節二
水岡 繁 登	広島大学学校教育学部	第一章第四節
河瀬 正利	広島大学文学部	第二章・第三章第三節
押部 佳周	広島大学学校教育学部	第三章第一節・第二節・第七章第一節一
山中 寿夫	文教女子大学文学部	第四章第一節・第五節二
星野 英一	広島県立観音高等学校	第四章第二節・第三節・第四節
井野 美津子	広島市公文書館	第四章第五節一・第六節
三上 嘉明	比治山女子短期大学	第五章第一節・第六章第一節一・第七章第一節二
柴原 健児	広島大学附属東雲中学校	第五章第二節一・第六節・第七節一・第八節・第九節
佐中 忠司	広島大学学校教育学部	第七章第二節四・第四節四1 第五章第二節二・第三節・第六章第一節三・第二節・第七章第一節三・四・第二節一・二・三・第三節・第四節一・二
藤井 千之助	松山商科大学経営学部	第五章第七節
渡辺 秀人	広島県教育委員会事務局	第六章第四節
神鳥 武彦	広島大学学校教育学部	第七章第四節三・四2・3・4・五・六

熊野町史 通史 編

昭和六十二年十月一日 発行

編集
発行 広島県安芸郡 熊野町

〒731-42 広島県安芸郡熊野町三五五一番地の一

電話 (〇八二) 八五四一―一一二一

印刷 柳きよひせし

中国支社 広島市中区八丁堀二一六
電話 〇八二二二二―一六七一